

## 国語科における改訂のポイント

### 1 『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編』（以下、『解説』という。）について

#### (1) 目標の構成の改善（『解説』 p. 6, 7, 11~14）

育成を目指す資質・能力の明確化を図るため、各教科等で「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で教科の目標を再整理した。

国語科が「国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力」を育成する教科であることを規定した。

#### (2) 内容の構成の改善（『解説』 p. 7, 8, 17）

三つの柱に沿った資質・能力の整理を踏まえ、これまでの「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の3領域及び〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕の内容を、〔知識及び技能〕と〔思考力、判断力、表現力等〕に構成し直した。

#### (3) 学習の系統性の重視（『解説』 p. 9）

指導事項と言語活動例について、小・中学校を通じて、重点を置くべき指導内容を明確にし、系統化を図った。このことを踏まえ、『解説』では、各指導事項の説明の冒頭に、太枠の当該学年の内容とともに、その前後の学年の内容が確認できるようになっている（参考1）。

(参考1)

○推敲

小学校第5学年及び第6学年	第1学年	第2学年	第3学年
オ 文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えること。	エ 読み手の立場に立って、表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えること。	エ 読み手の立場に立って、表現の効果などを確かめて、文章を整えること。	エ 目的や意図に応じた表現になっているかなどを確かめて、文章全体を整えること。

#### (4) 授業改善のための言語活動の創意工夫

〔思考力、判断力、表現力等〕の各領域において、どのような資質・能力を育成するかを(1)の指導事項に示し、どのような言語活動を通して資質・能力を育成するかを(2)の言語活動例に示すという関係を明確にした

(参考2)。また、各学校の創意工夫により授業改善が行われるようにする観点から、従前、示していた言語活動例を、言語活動の種類ごとにまとめた形で示している（参考3）。



(参考2) 『解説』の付録4より

- (1) 書くことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- (2) (1)に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。

(参考3)

B 書くこと	第1学年	第2学年	第3学年
○説明的な文章を書く活動	ア	ア	ア
○実用的な文章を書く活動	イ	イ	イ
○文学的な文章を書く活動	ウ	ウ	ウ

### 2 「言葉による見方・考え方」について（※中学校学習指導要領解説 国語編からの抜粋）

#### (1) 国語科の学習対象

国語科は、様々な事物、経験、思い、考え等をどのように言葉で理解し、どのように言葉で表現するか、という言葉を通じた理解や表現及びそこで用いられる言葉そのものを学習対象としている。

#### (2) 言葉による見方・考え方を働かせるとは

言葉による見方・考え方を働かせるとは、生徒が学習の中で、対象と言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に注目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めることであると考えられる。この「対象と言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に注目して捉えたり問い直したり」するとは、言葉で表される話や文章を、意味や働き、使い方などの言葉の様々な側面から総合的に思考・判断し、理解したり表現したりすること、また、その理解や表現について、改めて言葉に着目して吟味することを示したものと言える。

#### (3) 授業改善を進めるに当たって

このこと（※上記（2）のこと）は、話や文章を理解したり表現したりする際に必要となるものであるため、これまでも国語科の授業実践の中で、生徒が言葉に着目して学習に取り組むことにより「知識及び技能」や「思考力、判断力、表現力等」が身に付くよう、授業改善の創意工夫が図られてきたところである。

国語科において授業改善を進めるに当たっては、言葉の特徴や使い方などの「知識及び技能」や、自分の思いや考えを深めるための「思考力、判断力、表現力等」といった指導事項に示す資質・能力を育成するため、これまでも国語科の授業実践の中で取り組まれてきたように、生徒が言葉に着目し、言葉に対して自覚的になるよう、学習指導の創意工夫を図ることが期待される。

## 国語科における学習評価のポイント

### 1 国語科における評価の観点について

三つの柱で整理された育成を目指す資質・能力に対応するように、評価の観点も従前の5観点から3観点「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」に整理して示している。

「主体的に学習に取り組む態度」では、「①粘り強さ」「②自らの学習の調整」の双方を適切に評価できるような評価規準を作成することが重要である。

## 2 年間指導計画表の作成について

『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料【中学校国語】（以下、『参考資料』という。）のp.49に「年間指導計画表」の例（参考4）を示している。

「年間指導計画表」の例  
(第1学年「思考力、判断力、表現力等」A話すること・聞くことの一部を抜粋)

単元名	指導事項・言語活動例	指導時期			
		1	2	3	4
思考力、判断力、表現力等	ア 目的や場面に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討すること。				
	イ 自分の考えや相手が明確になるように、話の中心的部分と付加的な部分、事実と意見との関係などに注意して、話の構成を考えること。				
	ウ 相手の反応を踏まえながら、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫すること。				
	エ 必要に応じて記録したり質問したりしながら話の内容を捉え、共通点や相違点などを整理する。自分の考えをまとめること。				
	オ 話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめること。				
	ア 紹介や報告など伝えたいことを感じたり、それらに関して質問したり意見などを述べたりする活動。				
	イ 互いの考えを伝えるなどして、少人数で話し合う活動。 (上記以外の言語活動)				

(参考4)

指導事項の○印は、当該単元で指導及び評価する内容を表し、◎印は、重点的に指導及び評価する内容を表している。国語科においては、一つの指導事項を年間で複数回繰り返し取り上げて指導することが多い。

いつ、何の教材を扱うかだけでなく、いつ、どのような資質・能力(指導事項)を育成するのかを意図的・計画的に考えることが極めて重要であり、このことを明確にした「年間指導計画表」を作成しておくことが大切である。

## 3 単元の目標と言語活動の設定について（『参考資料』p.31, 38 参照）

### STEP 1 単元で取り上げる指導事項の確認

年間指導計画等を基に、単元で取り上げる指導事項を確認する。

### STEP 2 単元の目標と言語活動の設定

(1)「知識及び技能」及び(2)「思考力、判断力、表現力等」の目標については、基本的に指導事項の文末を「～できる。」として示す。

例：(1)「知識及び技能」の【中学校第2学年指導事項(2)情報の扱い方に関する事項イ】「情報と情報との関係の様々な表し方を理解し使うこと」の文末を「理解し使うことができる」にする。

(3)「学びに向かう力、人間性等」の目標については、いずれの単元においても当該学年の目標である「言葉がもつ価値(中略)思いや考えを伝え合おうとする。」までを示す。

単元の目標を実現するために適した言語活動を、言語活動例を参考にして位置付ける。従前に引き続き、言語活動を通して指導事項に示した内容を指導することが大切である。

※単元名の例：「走れメロス」を読んで、登場人物の言動の意味を語り合おう（『参考資料』p.58参照）

### STEP 3 単元の評価規準の設定

#### ○「知識・技能」の評価規準の設定の仕方

当該単元で育成を目指す資質・能力に該当する〔知識及び技能〕の指導事項の文末を「～している」として作成する。育成したい資質・能力に照らして、指導事項の一部を用いて作成することもある。

#### ○「思考・判断・表現」の評価規準の設定の仕方

当該単元で育成を目指す資質・能力に該当する〔思考力、判断力、表現力等〕の指導事項の冒頭に、指導する一領域を「(領域名)において、」と明記し、文末を「～している」として作成する。育成したい資質・能力に照らして、指導事項の一部を用いて作成することもある。

#### ○「主体的に学習に取り組む態度」の評価

以下の①から④の内容を全て含め、単元の目標や学習内容等に応じて、その組合せを工夫することが考えられる。なお、〈 〉内の言葉は、当該内容の学習状況を例示したものであり、これ以外も想定される。

- ①粘り強さ(積極的に、進んで、粘り強く等)
- ②自らの学習の調整(学習の見通しをもって、学習課題に沿って、今までの学習を生かして等)
- ③他の2観点(「知識・技能」、「思考・判断・表現」)において重点とする内容(特に、粘り強さを発揮してほしい内容)
- ④当該単元の具体的な言語活動(自らの学習の調整が必要となる具体的な言語活動)

### STEP 4 単元の指導と評価の計画の決定

各単元の具体的な学習活動を構想し、単元のどの段階でどの評価規準に基づいて評価するかを決定する。

### STEP 5 評価の実際と手立ての想定

それぞれの評価規準について、実際の学習活動を踏まえて、「おおむね満足できる」状況(B)の例、「努力を要する」状況(C)への手立てを想定する。

今回の国語科における評価規準の作成の考え方においては、実際の学習活動を踏まえて「Bと判断する状況」の例を具体的に想定することが極めて重要である。

「Cと判断する状況への手立て」の例を想定することは、現行と同様である。